



自立した学習者の育成を目指して

～「がじゅまる通知表」の活用と教育DXの実践～

豊見城市立座安小学校
教頭 仲宗根 淳



本校児童の実態：高い学習意欲と良好な仲間関係



本校の「強み」

「楽しく話せる仲間がいる」

肯定率 **97.7%**

「わかろうとして授業に参加している」

肯定率 **94.2%**



顕在化した課題：自己表現と自律的学習への壁

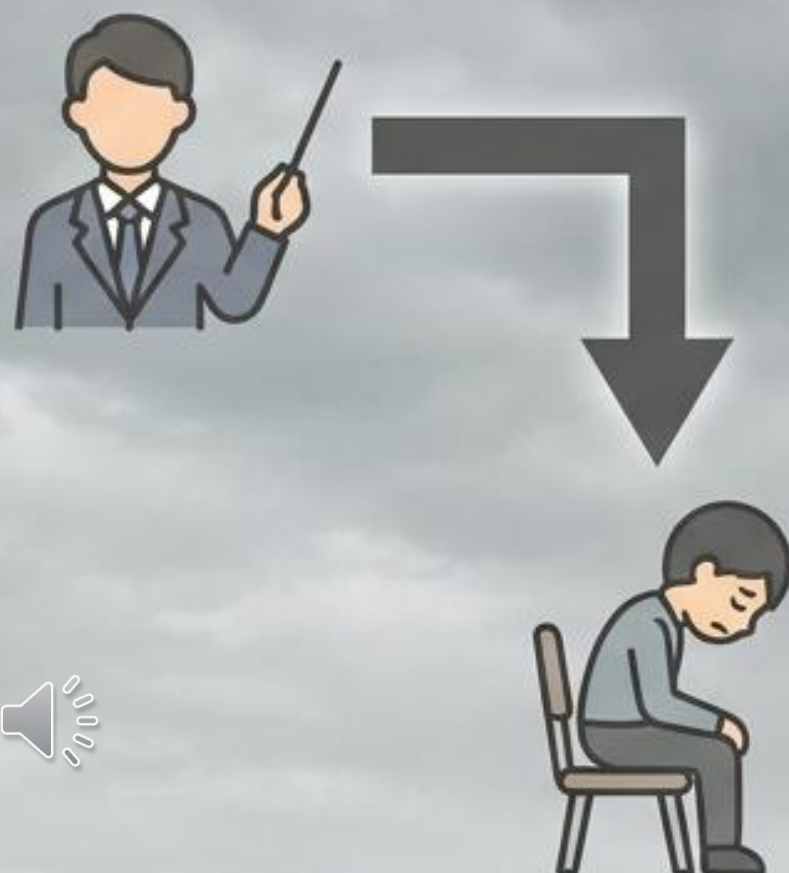


通知表のパラダイムシフト：評価の主語を「子ども自身」へ



従来の通知表

- 主語：教師
- 目的：成績を『伝える』
- 基準：他者比較・一斉基準



これからの通知表（がじゅまる通知表）

- 主語：子ども自身
- 目的：ログを活用し成長を『自己決定する』
- 基準：個人内評価・成長の軌跡



デジタル通知表「がじゅまる」の誕生

児童自身による命名。シンボルの木「がじゅまる」のように
力強く根を張り、大きく成長してほしいという願い。



がじゅまる通知表：3つの機能の一元化



📁 作品コーナー
[成果物ポートフォリオ]

豊かに茂る葉と実：デジタル成果物の保存と振り返り

📅 生活コーナー [ライフログ]

大地に張る根：基本行動の自己採点と振り返り

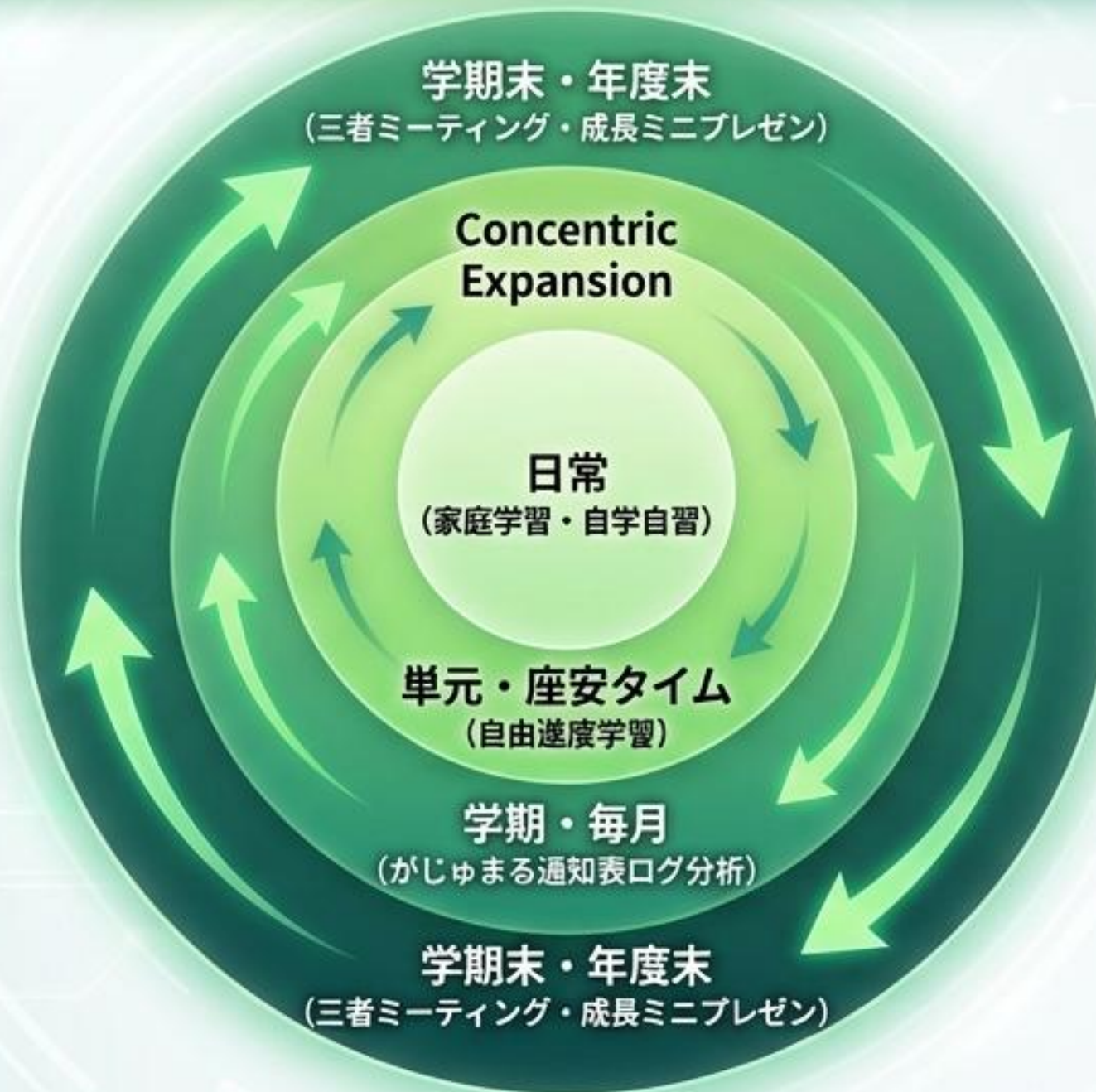
📊 学習コーナー [スタディログ]

太く育つ幹：単元テストの点数と自己分析の蓄積



校内研究と教育DX：4つの時間スケールによるPDCA

研究テーマ「自分で考え、計画し、行動できる児童の育成」



扱うデータ量と
他者との関わりが増加



実践① 毎月の自己評価活動：客観的振り返りの日常化

「数値＋理由」の
積み重ねが、
感覚的ではない
客観的なメタ認知を

今月の振り返り（定量）

あいさつ ★★★★★



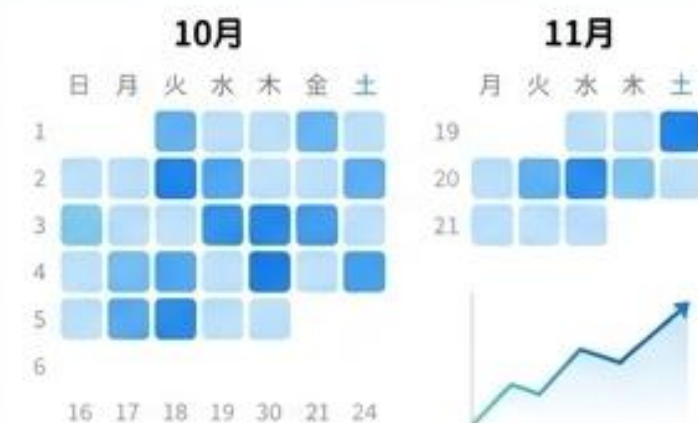
もくもく清掃 ★★★★★



完了

理由・変化（定性）

なぜその点数なのか？先月とどう変わったか？



「数値＋理由」の
積み重ねが、
客観的なメタ認知を
習慣化する



実践② 三者ミーティングによる「個人内評価」の実現

教員が保護者に成績を「言い渡す」場からの脱却



伴走型の対話空間



対話の質を変える：コーチングのフレームワーク

「答えは子どもの中にある」という前提

ティーチング / 過去



ここがダメ。
こうしなさい。



コーチング対話 / がじゅまる流



なぜ頑張れたと思う？

次はどんな方法を試してみる？



実践③ データに基づく自学自習計画の立案

一律の宿題リストを廃止し、自律的に決定する

Step 1: ログの分析



Step 2: 課題の自己決定



Step 3: 計画の実行



Step 1: ログの分析

「漢字の送りがながが苦手」
「算数図形を復習したい」
などのインサイト発見

Step 2: 課題の自己決定

自分だけの重点目標を設定

Step 3: 計画の実行

自律的な実行と振り返り

実践④ 単元「ミニプレゼンで伝えよう」全体計画

学級活動・国語・総合を横断した合科的単元（全10時間）



実践④「情報」を「決意」に変える学習プロセス

Cognitive Flowchart



1. インプット (Input) [①～②時]

見通しと振り返り:
多角的なデータ収集

2. プロセッシング (Processing) [③～④時 本時]

成長発見と目標決定:
なりたい自分を抽出

3. ストラクチャリング (Structuring) [⑤～⑧時]

資料作成とスピーチ推敲:
思いを根拠資料へ構造化

4. アウトプット (Output) [⑨～⑩時]

ミニプレゼン会:
クラスや家庭へ発信



第5学年 授業実践：自らがデータログの「読み手」になる

学級活動「ぼく・わたしの成長を見つけよう」



第5学年 授業実践：自己分析の工夫（2画面クロス分析）

テスト点数画面



生活振り返り画面



数値に現れない
『意識の深まりや努力』の発見！



第5学年 授業実践：確かな自己決定を支える3つの手立て

 過去からの視線 

「キャリアパスポート」
4月に立てた目標との
ズレを自覚

 未来からの視線 

「6年生の動画」
2学期の具体的な姿を
イメージ

今の決断
(2学期の
目標設定)

 他者からの視線 

「友達の応援メッセージ」
見えない強みを確信に変える



実践成果：児童の意識を変えた定量データ

「自分の成長に気づけた」

88%

「振り返りはこれからも大切」

86%

「授業で自分の意見を発表したい」

Before

51.5%

After

81%



自己表現意欲の大幅な向上！

実践成果：児童・学校にもたらされた定性的変化



1. 自己理解の深化

成績の良し悪しではなく、主体的に「学び方の工夫」を行う姿が増加。



2. ポジティブな対話

先生や家族が「ほめる」機会が増え、努力のプロセスを認め合う風土の形成。



3. 自己肯定感の向上

データという客観的根拠を持つことで、「自分是可以る」という確固たる自信の獲得。

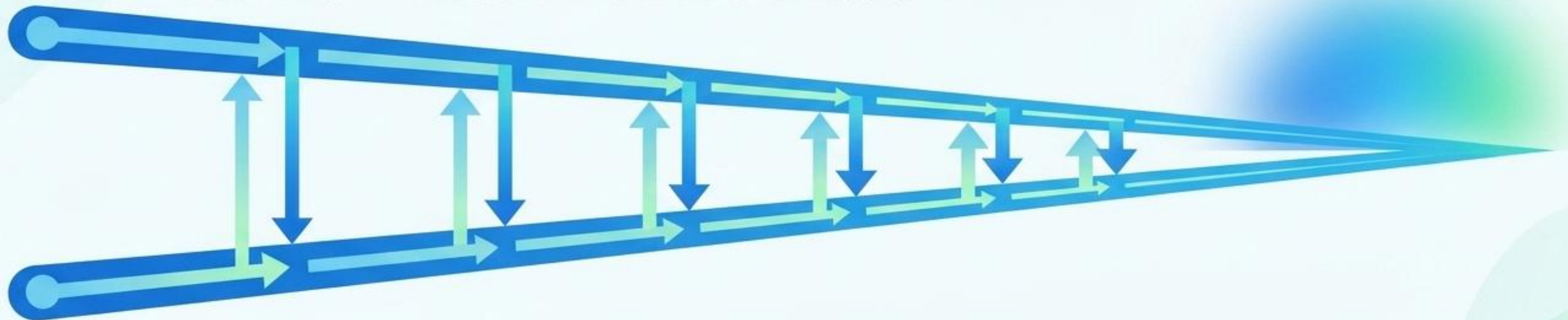


今後の展望：持続可能な教育DXの推進



家庭とのパートナーシップ

通知表の共有による連携強化。共に伴走する「子ども応援団」へ。



教員の伴走者化と業務改善

所見作成負担の大幅軽減。教員は「評価者」から「伴走者」へシフト。



まとめ：未来を拓く「自立した学習者」の基盤づくり



がじゅまる通知表のログを活用し、
「計画→実行→振り返り→次の計画」のサイクルを
子ども自身が回し続けることで、未来を拓く力を育みます。